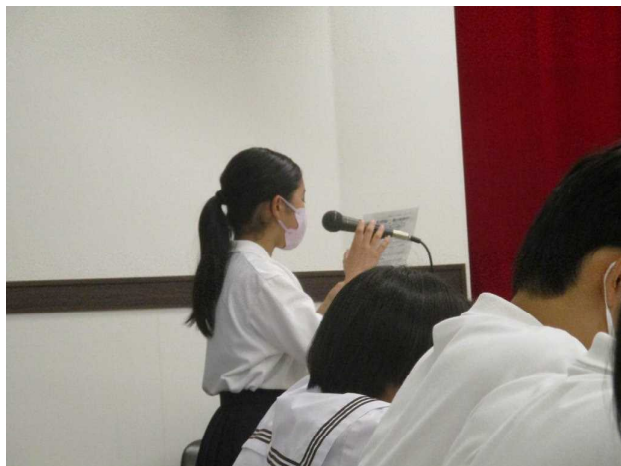


## 全体会午後の部 I

**司会者** それでは定刻がきたので着席してください。ただ今より、全体会午後の部 I を行いたいと思います。

午後の部 I の司会を担当させていただきます松茂中学校 1 年 a j です。よろしくお願いします。



午後の部は、前半の I と後半の II の 2 部構成になっています。最初に意見発表を 3 本していただき、その内容を通して、みんなで人権について語り合いたいと思いますので、みなさん、どうぞご協力、よろしくお願いします。

まずは前半 1 本目の意見発表です。板野中学校 3 年 a a さん「正しい知識と理解」です。よろしくお願いします。

### 「正しい知識と理解」

**板野中学校 3 年 a a**

私は、普通の人より聴力が低い。完全に聴こえないわけではないけれど、日常生活で困ることが多く、特に困るのは大事なことを聞き逃したとき。これはどこでも起こることで、特に最近ではマスク生活で相手の口の動きが分からず、言葉を聞き取ることが大変難しくなった。体温計の音が聞こえづらいのもストレスがかかる。

小学校の時には、聞き取りづらくて友達に何

回も聞き直したことがあった。するとその子は怒り気味に言い直してくれたけど、正直ショックだった。確かに、自分も同じことを何回も言わされたらイラッとしてしまう。けれど、自分が聴こえにくいだけでなぜ傷つかなければならないのだろうか。このようなことをなくしていくためには、正しい知識と理解が必要である。

世の中には、未だに差別をする人たちがいる。そんな人たちに正しい知識をもってもらえるよう、SNSで活動しているのが、「難聴うさぎ」さん。彼女はYou TubeやTik Tokでありのままの自分を発信し続けている。私は、彼女がありのままの自分を世界に発信している姿を見て、すごくカッコいいなと思った。これからも彼女を応援していきたい。



私が耳が聴こえにくいとはっきり感じたのは中学 2 年生の時だ。中学はいろんなことに敏感になる年頃。私は友達と話している時、耳の聴こえにくさに違和感を覚えた。今まで気にしていなかったことが徐々に気になり始めたのだろう。その後、個人病院から大学病院へ移り、検査が始まった。病院での検査は私にとってもすごく過酷なものであった。長時間ヘッドホンをつけたままの検査。どんどん気が重くなり、診察を待つ時間でとても疲れた。担当医の先生からは、補聴器がなくても普通に生活できるけど、試しに補聴器をつけてみるのはどう？と言われた。だが、私は絶対に嫌だった。試しにつけるだけでも絶対につけたくなかった。自分が補聴器をつけている姿を家族にさえ、見られる

のは嫌だったからだ。そのとき、母にこう言われた。「補聴器をつけることが恥ずかしいの？じゃあ補聴器をつけている人は恥をかいているの？そんな失礼だよ」と。そこで私は、自分の中にも差別心があることに初めて気がつくことになった。

今まで人権学習をしてきて、自分の心はキレイだと思っていたけど、実際は違った。私自身が、同じ立場の人を恥ずかしいと思ってしまっていたことが、逆に恥ずかしくなった。「寝た子を起こすな」とよく言われるが、人権学習を重ねる中で生まれた差別する心もあるかもしれない。でも、正しい知識を身に付けていれば、それが自分の中にある差別心だと気づけるようになるはずだ。

正しい知識と正しい理解が広まることによって、明るい未来が見えてくる。今もなお、いわれのない差別に苦しんでいる人の心が少しでも救われるよう、これからも、自分自身にできることを考え続けていきたいと思う。

**司会者** ありがとうございます。どうぞ元の席に戻ってください。

続いて、前半2本目の意見発表です。八万中学校3年aさん「私の人権学習」です。よろしくお願いします。

### 「私の人権学習」

#### 八万中学校 3年 a

あなたは、人と関わって後悔したことはありますか？私にはその経験があります。

私たちが小学6年生の頃に、コロナウイルスの影響で一番最初の休校が起きました。

小学校での最後の思い出は、卒業式前日の練習と卒業式でした。友達と遊んだ記憶が少なかったと思います。それから、中学校入学までも、コロナウイルスの感染対策のため、友達とコミュニケーションをとれていませんでした。

私には親友がいました。優しくて、可愛い自慢の親友でした。その子ともコロナウイルスに

よる休校で、なかなか会えない日が続いていました。やっと中学校が再開して、分散登校で学校に通えるようになって、私とその子はクラスは一緒なのに、出席番号によって分けられたグループが違って、会うことができませんでした。その子と直接会ったのは、分散登校の期間中に1回だけ会ったのが最後でした。



通常の授業が再開された1日目、「やっと友達と会える…！」と、私はわくわくした気持ちで学校へ向かいました。しかし、私の親友の姿が見えませんでした。まだ来ていないのかと思い、しばらく待ちましたが、朝の学活の時間になっても、1時間目になっても、ついには放課後まで待っても、彼女は来ませんでした。家に帰ると、「体調不良で休む」という内容のLINEが届いていました。私は心配しつつ、事故にあったのではなくて良かったと安心しました。

しかし、次の日も、1週間後も、1ヶ月後も、彼女は学校へ来ませんでした。1週間ほどは「体調が悪いから」と連絡のLINEが届いていましたが、その後はLINEの連絡が止まりました。いわゆる「不登校」という状態だったようです。私もうすうす彼女は不登校になってしまったのではないかと思っていましたが、担任の先生から手紙を書いてほしいとお願いされて、学校であの子は不登校と認識されているのだと確信しました。そのときの手紙に私は、彼女を不登校だと思って同情しているような内容の手紙を書いてしまいました。これが私の最大の後悔です。不登校の彼女ではなく、私の親友である、一人

しかない彼女に手紙を書くべきでした。

それから手紙の返事も、LINEの返信も来なくなってしまいました。それからノートをまとめて渡したり、長文のLINEや手紙を送ったりしました。彼女が学校に来なくなってからしばらく経った頃、彼女が学校に来なくなってしまったのは、私のせいではないかと思いはじめました。実際の原因は分かりませんが、小学校の最後の頃、私と彼女はけんかをしてしまっていたし、彼女の分からないであろう話題で友達と盛り上がって、彼女は一人黙ってしまうことも少なくありませんでしたし、私が親切だと思ってしていたことは、彼女にとってはうざったいものだったかもしれないからです。

毎日毎日、彼女のことをぐるぐると考えているうちに、彼女について考えることが辛くなりました。ちょうどそれぐらいの頃、私がいたクラスで話し合いが行われました。その内容は、「学校日誌の中で、欠席者数が“0”だと書いた子がいた」というものでした。その時に、「欠席者数が“0”はすごい!!」と、何も知らずに発言した子もいました。私は信じられませんでした。だって、その頃彼女は、学校に来ていなかったからです。彼女の存在を無かったことにされたようで、本当に胸が苦しかったし、辛かったです。私はその時の光景をはっきり覚えているし、忘れることができません。その時に私は、彼女にどう思われていても、“彼女のことを大切にしたい”“仲良くしたい”と、改めて思いました。それからは、悩みながらも懲りずに、彼女へ手紙を書き続けました。

しかし、そんな生活は2年生の1学期に、突然終わりを迎えました。彼女が引っ越したからです。私は最後の引っ越しのときでさえ、彼女に会うことはできませんでした。

今、彼女がどうしているかは分かりません。メッセージで一言二言交わただけです。彼女が私のせいで学校に来られなくなったのかは分からないし、周りの人は、違うと言うけれど、私は、彼女に対してとってしまった行動を後悔

しています。学級日誌で欠席者を“0”だと書いた子を、私はまだ許せていません。けれど、私はこの出来事を一生忘れずに生きていかなければならないと思います。

今でも、友達に対して、嫌な態度をとってしまったという後悔は山ほどあります。「もっと大切にすれば良かった」「もっと話をすれば良かった」なんて後から思っても、もう遅いのです。これから私は、親友に送った返信の来ないLINEと、自分の後悔をずっと胸に焼きつけて生きていきます。そして、このことをこれからの人生に生かしていきます。私たちにできることは、これから生きていくうえで出会う、大切な家族、友達、仲間に対して、これまでしてきた後悔を繰り返さないことです。

彼女との出来事が、私にとっての人権学習です。人権学習は一生続いていくのです。

**司会者** ありがとうございました。どうぞ元の席に戻ってください。

続いて、前半3本目の意見発表です。松茂中学校1年rさん「「楽」から「楽しい」へ」です。よろしくお願いします。

### 「「楽」から「楽しい」へ」

松茂中学校 1年 r

ボクは、中学校に入り、本気で語ることや、自分以下を求める心について学びました。また、本気で語ると、語ったことが行動に移せたり、過ちを反省して、二度としないようにすることについて学びました。

ボクは、小学校の時、本気で語るということをしていませんでした。ただ書いておけばよいと思っていました。そもそも、自分の書いた文を読むこともあまりありませんでした。周りの人たちは、ちゃんと書いて、発表できそうなときは、手を挙げて語っていました。ボクは、勇気が出ず、手を挙げていませんでした。

小学校6年生の時、道徳の授業で、1つの資料について考え、思ったことを書くという場面



がありました。そのときは何も思いつかず、少しずつ時間が去っていきました。だから、あせりだして、何でもいいから適当に書きました。道徳は、何でも書けばいいだけなので、楽だと少し思っていました。



数学や英語などとは違い、計算をしないし、英単語を覚える必要がなかったのも、そう思っていました。そして、発表できる時間を先生がつくってくれたとしても、手を挙げずに黙っていたということがありました。このことは、まさに7月9日にあった「人権を語り合う中学生交流集会+」の第4回実行委員会で配布された鳴門市人権地域フォーラムのチラシに書いてあったことと似ています。

P T Aの会合で、所属する専門部を決めるときに、人権部が人気だということが書いてありました。しかし、その人気の理由が「することが少なく楽だから…」という理由でした。

「楽」というところが自分と似ていると思いました。今思うと本当にはずかしいことです。

中学校に入ってから、本気で人権学習に取り組んでいけるようになり、今は強く堂々と語れます。でもまだまだだとボクは思います。理由は、最初の方で話した「自分以下を求める心」がまだ自分の中にあるからです。頭の中では、そのような心はもってはいけないと思っています。しかし、テストの点数が低いとき、他の人の点数を確かめ、自分より低かったら安心してしまいます。今後そのようなことがないようにしていきたいです。

ボクは中学校で取り組んでいる「語り合いの人権学習」から強く思うようになったことがあります。それは、「読むこと」と「語ること」の違いです。自分の思いを綴った作文を読んで発表することと、聞いてくれるみんなに向かって語るの違いについて、人権学習の醍醐味は「語る」にあると思うようになりました。

「語る」は、書いていることを本気で堂々と言葉でしゃべることであり、一つ一つの言葉に感情が入っていくと思います。小学校のボクは、「読む」ことしかできていませんでした。でも、中学生になり、1学期にたくさんの「語る」ということを体験してきました。

そのおかげで、今は、「人権を語り合う中学生交流集会+」でも、みんなの前で勇気を出して語れるようになったと思います。今、道徳なんて「楽」と思っていた自分はずかしいと思っています。中学校で出会った「語り合いの人権学習」によって、道徳の授業のあるべき方向と、本心を「語る」ことの重要性としっかりと学ぶことができたと思っています。

もう一つ、ボクの心には残っている言葉があります。それは「人権学習は、高校や大学で終わりではない」という言葉です。確かに他の学習は終わりですが、人権学習は違います。大人になっても学ぶことがある学習です。この言葉を胸に、これからは人権学習や、最初に話をした「自分以下を求める心」をなくしていくことを目標として、人権について深く関わりたいです。

**司会者** ありがとうございます。どうぞ元の席に戻ってください。

それではこれから、意見発表を通しての討議にうつりたいと思います。発表についての感想や意見交換、参会者のみなさんの思いを語っていただければと思います。

マイク係として、板野中学校2年fさん、松茂中学校2年xさんの2人がフロアをまわります。

なお記録の関係上、発表者は学校名、学年、名前を言ってから発表してください。

それではよろしくお願いします。

**松茂中学校 1年 a b** rさんの作文を聞いて思ったことは、自分はまだまだと言っていたけど、午前中でもそうだし、すごい生き生きと発表していてすごいなと思ったし、まずこの前で自分から発表したということもすごいと思いました。rくんは自分の目標です。rくんを越えられるように頑張りたいです。



**松茂中学校 1年 a c** ボクはaさんの人権作文を聞いて思ったことは、補聴器をつけている人の話が出てきたんですけど、自分もやっぱり自分を普通として見ているなというところがあって。もちろん自分と違う生き方をして人生を歩んでいる人もいるのに、自分が常識人だと、普通の生き方をしている人間なんて、ボク以外にもそういう人がいると思うんですけど、やっぱり自分とは違う、そうい



う人たちをこの人は普通じゃないとか、切り離してしまうのは差別とかいじめの原因にもなっていくし、それはやめて自分という常識にとらわれないで、広い視野で社会とかを見て、新たな常識をもって周りの人たちと接していければ、いじめとか差別とか障がいとかに関係するものも少しずつなくなっていくのかなと思います。

**松茂中学校 2年 w a**さんの作文を聞いて、まず最初に泣きながら話してたんで、すごく親友への思いが伝わってきました。まず思ったのは、親友が転校したのはaさんのせいではないんじゃないかなって思います。なぜかという、aさんはできることはしてましたし、手紙とかLINEでも励ますようなメッセージを送っていたので、aさんのせいだけではないと思います。話の内容で、友達のわからないような内容を話してたって言うんですけど、全員が知ってるような内容を話すというのは学校の中では難しいし、aさんはコロナで会えなくなったっていうのもあったけど、かなりLINEとかでも交流を取っていたので、aさんのせいだけではないと思います。aさんが自分のことを許せないと言っていたんですけど、できることはしているので、もう少し自分のことを許してあげてもいいかなと思いました。



**土庄中学校 3年 n** 私もしaさんの作文がすごくいいなと思いました。理由は、私にも親友



がいて、その子とはすごく仲いいんですけど、コロナの間とかもけっこう連絡は取ってて、疎遠になったりとかはあんまりなかったんですけど。来なくなったって言うてたじゃないですか。私も、さっきの方と一緒に、それはaさんのせいではないと思います。私も結構、友達とかは私がいるのに知らない話をするのがあったんですけど、そこまで気にしてないし、むしろ新しいことが知れるからいいなと思って聞いているんですけど、もしかしたらその親友さんもそう思っていたのかもしれないですし、あとLINEとか手紙とかずっとその子のためにできていたことにとっても感動しました。だからあんまり自分を追い詰めないでほしいです。素敵な作文ありがとうございました。



**瀬戸中学校3年 e** ボクもaさんの作文を聞いて思ったことがあって。自分も結構後悔をいっぱいしてきて、友達に対して口が荒かったりとか、自分が取った行動に対して、なん



でこんなことしてしまったんだろうって結構思うことがあって。けど後悔してからじゃ遅かって、自分で反省するしかないんで、これからはもっと自分が取った行動に対して相手がどう思うかとか、この先どうなるかっていうのをしっかり考えて行動しようと思いました。

**高瀬中学校2年 q** ボクもaさんの作文を聞いて思ったことがありました。さっきの人のようにそんなに大きなことではないけど、友達と2人で会話していたり、普段の会話の中でもたまに今の言葉遣いはどうだったんだろうとか、あいつ今どう思っただろうとか考えてしまうことがあります。それは、言葉遣いが悪かったり、そういうことできつと相手のことを心から考えられていなかったのかもしれないと思いました。トラブルなしにとは無理かもしれないけど、相手を傷つけることが少しでも少なくなるような考えを持てるようにしていきたいなと思います。



**八万中学校3年 l** この3つの作文を聞かせてもらって思ったのは、3つとも全部私にとっての人権学習っていうのがしっかり出たと思うんです。a aさんのだったら、難聴になってしまって、自分の考えから差別心が見つかってしまうだったりとか、rさんだったら、自分の学習からこうなんじゃないかっていうのをを出してたりとか。aさんのだったら、後悔からきてたりだとか、ちゃんと自分

の考えをまとめられてるんですよ。3人とも。なんていうんですかね、大きいことは言いたくないんですけど、自分にとって人権学習ってどうあるべきか、人権ってどう捉えられるべきか、そういうのを考えられているのすごいいいと思いました。



**大麻中学校 2年 j** 私はa aさんの話を聞いて、私もどこかで自分が当たり前だと思っていて、他の例えば補聴器もそうなんですけど、例えばめがねとかだったらみんながつけているから私もつけているんですけど、それは別につけていてもおかしくないって思うんですけど、補聴器とかだったらつけている人が少ないっていうのもあるし、私もあんまり見ないで、あの人は違うところがあって、その人の当たり前を認めないところがあったので、自分が普通じゃなくて、その人にはその人の普通があって、当たり前があって、その他の人それぞれの普通を認めていけたらなって思いました。



**松茂中学校 2年 v** a aさんの作文を聞いて、自分の話を今からしようと思うんですけど、人と自分だけが違うということを誰でももってると思うんですよ。髪の毛が違<sup>きつおん</sup>うとか、身長が高い低いとか。ボクは吃音というのをもってて。そこまで重症じゃないんですけど、はじめの言葉が詰まったりする病気っていえば病気なんですけど、吃音を昔はボクだけがもってると思ってて。みんな普通に話してるからいいなとか思ってたんですけど。NHKとかで特集が組まれることがあるんですけど、そういうTVを見たときに自分以外の人もそういう一緒の症状が出ていて、すごい重傷な人もいて。そういう人を初めて見たときにすごい変だなって思ったんですよ、ボクは。



さっきも言ってくれたみたいにそれは差別になるんじゃないかと今言われて思いました。今、徳島言友会っていうのがあるんですけど、それにボクも行ってる。吃音の当事者とかそういう人たちが集まって話すんですけど。そういう会話する場とかでも自分はそういう体験をしましたとか、すごい重傷な人たちのことを変な目で見るというか、そういう気持ちがありましたとかいう意見がよくあって。それがまず普通だと思うんですよ。ボクはそこまでひどくないから、困っている人見たらわーって思うし。そういう自分と違うことをしている人を見る時って、やっぱりわーって思ったりするのが普通だと思うんですよ。これからは、気をつけたいと思うんで、



あまり思ってしまった自分をあーって落ち込むんじゃなくて、これから思わないようにしようって思っほしいなと思いました。これで終わります。

**松茂中学校2年 w** さっきのこの子話を聞いて、ボクはこの子と保育園から知ってて、吃音があるってことも知ってて。詰まったりもしてたんですけど、その子のそれが良さだと思ひ、その子のまゝ個性だと思ひですよ。例へば重傷の人とかを見てそう思ひないようにしようと言っってたんですけど、正直言っ思っしまわないようにするっていうのは、まゝ難しきことだと思ひですよ。思っしまわうのは仕方ないかもしれないんですけど、それを思っ上で認めてあげたりとか、それを自分のことのように考へてあげるっていうのが必要なかなと思ひます。ありがとうございました。



**大麻中学校2年 b** 私はaさんの作文を聞いて、私も不登校の子ではないんですけど、友達とLINEで言い方が悪いようなことを言っしまっ、それで友達を傷つけて、そこから話もせず会っもなくてきたんですけど。aさんのようにこれからLINEとか手紙とかで毎日出して仲良くなれるような感じになりたいと思ひました。

**松茂中学校2年 x** 私もaさんの作文を聞いて、私も10年くらいの親友がいるんですけど。

親友だからこそ言えることとかあるじゃないですか。だから、私は言っいいと思っ言ってるんだけど、それが傷つけてしまわっいたり、してるかもしれないと思ひます。親友だからとっってべったりしてしまっいるから、aさんの作文を聞いてもっ自分の言葉に責任をもっ発言したいと思ひました。



**穴吹中学校教員 河見** 教員なんです、穴吹中学校で教員をしまっ、河見と言ひます。2年前まで八万中学校にしまっ、aさんと1くんも1年生の時に何回も話をしまっんですが。教員としてではなくて、自分が中学生、高校生だったときの話をさせてください。ボクは高校時代に不登校で学校に行かずに、留年をしまっ。なので、高校に4年間通っています。皆さんも高校に行かんかったら、4年でも5年でも通えます。中学校は3年しかおらしてくれまっけど。

ボクは不登校側の意見をちょっと言わっしてください。aさんはすぐそれで後悔をしまっという話だったんですが。ボクは高校時代に、今日授業に出なければ留年が決まりますという日にクラスの子たちが、高校なので二駅分くらい離れてたんですけど、自転車でボクの家まで迎えに来ました。おい今日来んかったらあかんらしいけん来いよって迎えに来てくれました。その日はボクはもういいいやながら一緒に行っ、本当にありがたいな、頑張らんないかなと思ったんです。けど、次の日からまた行きまっませんでした。なので、留年を



しました。

でね、aさんはすごくいろんなことをしたと思うんですよ。さっきの話も涙ながらにしていたように。それをボクは受けて、いっつも迷惑とは思わなかったんですよ。すごくありがたいなと思ったんだけど、それに応えられなかった自分がすごく悔しかったんですよ。で、そこからずっと学校に行かなくて、その年が終わって、クラスの子からボクはもう留年決まってるんですよ、その子たちと一緒に進級できないのは決まってるんですけど、クラス会するけん来いよって言われました。その時に、こんだけしてくれたのに、ボクが裏切ったのに、それでもまだクラスの一員として、友達として、付き合ってくれるやつらがおるんじゃないかってことをすごく思いました。なので、aさんもそうだし、これからキミたちが同じような経験をしたときに、1つ覚えとってほしいのは、したことは後悔するかもしれんけど、お前いつでも帰って来いよ、待つとるけんなっていう気持ちをずっと持つといてほしいなって思うし、その気持ちを中学生に持ってほしいなと思ってボクは教員になったので、ちょっとこれを大人が喋るのはルール違反かなと思ったんですけど、どうしても言いたかったので言わせてもらいました。



**三重県教員 a d** 私、三重県の日野市というところから来ました。3年くらい前に一度この集会に来させていただいて、その時の中

学生の皆さんの語り合う様子がとても強く印象に残って、学校に戻ったときにこういう子どもたちが、自分の素直に思ったことを語り合う場をうちの学校でもつくりたいなと思って、3年くらいかけてつくってきました。今年またこの集会があると森口先生から教えてもらいましたのでやって来ました。率直に、どんなことでも、こんなこと言ってもいいのかなって思うようなことも、どんどんまた別の人が返してくれたりする姿を3年前見せてもらって、正直言うと私はこの集会のファンなんです。皆さんのどんな発言もとても値打ちのあるものだと思って聞かせてもらっています。



特に、今日の話題についての内容については、先ほどの先生もそうですし、自分が今一番感じていることは、差別というのは自分が人との間に線を引いてしまうことだというふうに私は捉えています。私は、部落出身という立場ですけれども、自分が30歳か40歳くらいまでの間に自分がその立場だということがわかった、そういう出会い方をしてきた人間です。その時に自分自身がどういうふうに向き合っていけばいいんだろうか、地区に生まれて育ってきた人のように、常に差別を身近に地肌に感じながら生きてきたわけじゃない。じゃあ自分は一体どんな立場なんだろうかと思って、自分をなんか頑張らなきゃいけないというふうに考えてしまいました。その時に私自身が自分を部落出身という線を自分に

引いていた。先ほどの聴覚についての感覚と同じなんじゃないかなと思ったんですね。そこが私の経験とつながりました。差別は自分自身が誰かとの間に線を引くこと。その線さえ取ってしまえば、差別はなくしていける。だから私は部落差別もその引いてある線に気がついて自ら引っぺがすことによって差別はなくしていけるというふうに考えて子どもたちとの勉強を続けています。

**松茂中学校2年 v** さっき、差別は線を引くとかいう意見が出たんですけど。ボクはさっきちょっとだけ考えて、なぜ線を引けるのになって思ったんですけど。さっきボクのこと話したと思うんですけど。



前にご飯やさんに行ったんですよ、外食行ったんですよ。そこで家族とご飯食べてたんですけど。お手洗いにいきたくなくて、店員さんに場所を聞こうとしたんですよ。でも、ボクトイレって今は言えたんですけど、その時は言いにくいときがあって、我慢したんですよ、その時は。いけたんですけど、帰ってからトイレしたんですけど。そこで、そのさっきお手洗いて言い替えたんですけど、そういう言葉も出てこなくて、店員さん呼んで、詰まりながらも言おうとしたらよかったのかなとか思ったんですけど。そしたらなんかさっき言ったみたいに、この人は違うなとか思われて、自分と違う人との間に距離を置きたいから、ボクは線を引くと思うんですよ。

すごい残念なことなんですけど、店員さんにしても友達にしても家族にしても、自分と違うっていうだけで、距離を取って線を引いて差別されて。そういう人がこの世にいるってことが、ボクはすごく心が苦しくなってるっていう体験をしたので、ちょっと話そうかなと思いました。ありがとうございました。

**シンジ** 午前中に発言をさせてもらったシンジですけど、先ほどの線を引くという話。自分にとって部落差別ってどういうことなんだろうな、自分で実際に線を引いてしまえばよってことは正直あるのかもしれませんが、その線というのが本当に自分が引いているのか、その線を自分で剥がさなければいけないのかというのはちょっと悩むところではあるんですけども。

結婚するときに、ボクは養子なんですけれども、結婚をしました。当然奥さんにも自分が部落であるっていう立場のことも伝えました。親父、奥さんのお父さんお母さんにも伝えました。でも、その話はじいちゃんばあちゃんにはしない方がいいだろうということは言われました。ということは、娘に伝えることもこれはもちろんNGなのかなあという判断を当時はしていました。でも、ボクの中では、先ほども言ったんですけども、娘には伝えるつもりでもいましたし、その中で徐々に子どもが成長していく。家で一緒にご飯を食べるときに、こういう中学生集会とかフォーラムとかいろんなところで発言した内容、毎年公開されているような内容を冊子にしてね、先生から頂いたりするんですけども。それをボクは大事に部屋に飾ってました。その時に奥さんのお父さんの方から、この本とかこういうんは娘の目に見えんようにしといた方がええんちゃうかということ言われました。これはねえ、線を引かざるを得んのですよ、ボクからしたら。取りたいんですよ。自分で線を引いてしまつとも間違いなくあります。

線を引いてしまってます。自分でほんなもん関係ないわって言いたいです。友達周りもほんなもん関係ないでないかっていう付き合い方はしてくれますけれども、なかなかねえ、自分で剥がせんのですよね。だから、吉成先生もさっきおっしゃってた、当事者じゃない人が頑張らなあかんのちゃうかていうのもその部分でもあるし。部落差別がある以上、どういう教育をみんな受けて、薄っぺらい授業受けたんか、濃い授業受けたんかわからんけど、差別っていうものに対して、いろんな差別の当事者は差別に負けない力をつけないかんですね。当事者でない側は差別しない力をつける。単純なことと思うんですよ。ていうことはお互いどういうことかっていったら、問題に対してすごく理解というか勉強するとか考えるとか、障がい者問題について頑張るとか。頑張るというのは結局、障がい者問題にしても、見て自分とは違うって思うんは人間の脳なので当たり前だとは思いますが、見たときにどういうふうな接し方をするんだろうとか、視覚的に見て違うってなったときに、自分としてはこういう捉え方をして、こういうふうなサポートに回るとか。してあげるとかいう感覚とはまた違うんですけどね。

部落問題についてもそういうふうな目に見えてっていうのがなかなかないもので、ほんなもん関係ないんちゃうかって言われがちなんですけども、全く関係ないこともないと思うんですよ。ボク自身のふるさと板野っていうところも馬鹿にされてるようなもんなんです。自分にも父ちゃん母ちゃんいますし、たまたま聞いてて、自身親父から今着信がありまして、今ちょうど親父は手術して入院生活送っている中で電話してきました。たぶん親父のことも頭にやってきます。ボクの親ありきでボクもおるし、ボクありきで娘もいるから、なんとかして差別に負けん力をつけてあげたい。そのためにはやっぱりボクも歩き出さないか

んし。だから線を自分で引いてしまっている部分はもちろんあるですけど、あるんですけども、自分だけで剥がしたらなんか適当な人間になりそうで。そこはきちんと向き合っている人々にわかってほしいなっていうんがあつて。線って聞いたときに、う〜ん。なんか、う〜んってなりましたね。自分にとってどうなんかっていうのはあれなんですけど。でも、まあ負けんようにね。ボクも頑張ってるんで。毎日勉強なんで、みんないろんな立場あると思うんですけど、自分のことのように落とし込むっていうのがすごい大事なことで。関わり続けていくっていうことはすごい大事なことで。友達と1回関わったら関わり続けるっていうことを忘れんようにしてください。すいません、ありがとうございました。



**八万中学校3年** | さっき線の話が出たじゃないですか。結構ボクいい表現だなと思って、ちょっと考えてたんです。自分にそういう所ないかなって。考えてたら、ボク今まで、ほとんど最近までずっと不登校やったんですよ。友達もいて、ちゃんと。Nってやつなんですけど。一緒に馬鹿みたいな話したりできるような友達もいるんですよ。まあそいつのためだったら行ってもいいかな、みたいな勢いで一回行ったことがあつて。経験してる中でも、努力でなんとかできそうやなって時と、できないなあって時があるじゃないですか。これ無理やなみたいな。その無理なときが、



Nってやつのために学校へ行ったときやって。対応が違うじゃないですか、先生方もそうですし、生徒の方も。まあ悪い言い方をすると腫れ物扱い<sup>はもの</sup>というか。仕方ない話ですよ。ボクがどうしたからといって消えないラインもあるわけですよ。体育館のテープ貼ってあるのわかります？あれを剥<sup>は</sup>がしたことある人、何人かいますかね。あれ剥<sup>は</sup>がすときに上に人乗ってたらどんだけ人が乗ってても剥<sup>は</sup>がせないじゃないですか、なんならちぎれるじゃないですか。その勢いで上に人が乗ってるんですよ、無理な時って。そこからどかすために、人をぼいぼいって、邪魔な人をどかしていくためにどうしていかないかなのようになって思っ。今のところボクの考えは、無視しよかと思っ。ラインがもし目の前にあったとして、それがどう頑張っても剥<sup>は</sup>がせんかったとしても、ひょいって乗り越えてしまえばそれで終わりじゃないですか。物理的に見たらそうかもしれんって思うかもしれませんが。腫れ物扱いを受けたとしても、流すというか、ああはいはい、そうねそうね、みたいな感じで。受け取らないって大事なんかなと思っ。情報の取捨選択っていうんですかね。受け取らない力も大事なんじゃないかなと思っ。



**松茂中学校 1年 r** さっき発表したんですけど、ここで言うのがいいのかわからないですが。線を引くっていうことにボクは最初に頭に浮かんできたのは、ボクは兄がいて、その

兄が障がい者なんです。あんまり言ったことがないんですよ。その兄ですが小学校1, 2, 3年ぐらひは、自分とは違っ、なんか自分とは違っ、他の人とも違っで嫌だと思っ線<sup>は</sup>を引いてたんですよ。ちょっと怒ったりしたら、ちょっとイラッときたりしてたこともあつたんですけど。小学校4年生から今にかけて、障がい者のことも習っ。ちょっと失礼なんですけど、普通じゃないってことなんですけど。でもそれは別にいいんじゃないかなって思っんですよ。別にそれで不便だと思っますけど、ボクはそれでいいんだと思っます。嬉しいときは喜んだりしてくれるのは最近だんだんわかってきて、同じ人間として対等に話していきたいと思っます。

スーパーに行ったときに、ちょっとはしゃいだりしたら周りの人から見られるんですけど、そういうのはちょっと嫌なんですけど、そんなのはもう気にしないって思っようになって、最近は自信がもてる兄になりました。ありがとうございました。



**板野中学校 2年 g** めちゃめちゃどうでもいいこと言うんですけど。今、心臓が阿波踊りの小太鼓くらいに鳴ってるんで、途中で話して止まっちゃったら申し訳ないんですけど、あたたかい目でみてください。

今、差別とか線を引いてるとかいろいろ聞こえてきて。ボク小学校5年生ぐらひかな。

ずっと差別っていう言葉について、今までいっぱい考えてきたんですよ。女性と男性っていったら、今ジェンダー問題で差別になるじゃないですか。でもトイレって男の人と女の人で分けられてるでしょ。それって日本語でいう区別っていわれるものなんですよ。部落差別とかだったら、部落の地域とその他っていったら差別になるけど、例えば板野町と藍住っていったら区別じゃないですか。それとか男らしいとか女子力があるとか、それだけ聞くとすごい響きの良い褒め言葉に聞こえるけど、一部の人からは差別のような言葉に変わってしまったりするじゃないですか。そういう線って必要なものなのか、必要じゃないものなのか、絶対そういうのって必要な線も数本あるはずなんです。数本とか数百本、数千本はあると思うんですよ。なんかこの世の中、ボクにとって社会のテストよりすごい難しいことばかりなんで、そういう線が本当にいる線なのか、差別となるいらない線なのか、見分けれるようなそんな大人、人間になりたいと思いました。



**高瀬中学校 2年 q** 今、男子とは女子とはという話がでてきたんですけど。ボクの話ではジェンダーみたいなそんな所までいかないんですけど。ボクは男子だから女子だからって

いう、そういうのがあまり好きではありません。去年の2月に同じ部活ですごく仲良い友達と一緒に俺らでチョコ渡し合おうって話になったんですよ。それいいな一みたいな、俺らもしようぜって話になって、家で作ったんですけど。そしたら急に、お前男子やのにチョコ作るんか。お前友達に持って行って、なんか変なふうに思われんのか、みたいなことを言われて。ボクはそれを聞いた時にすごくなんか腹が立って、気分が悪くなったことがありました。なんで男子だったらそういうことをしたらいけないのか、聞き返したくなりました。それ言われた時に思ったのは、ボクだけ侮辱<sup>ぶじよく</sup>されたんじゃないくて、友達も侮辱されたように感じて、すごく腹が立ちました。自分の生き方に勝手になんか線をつけられたような感じがして、すごく嫌な気分になりました。さっき言っていたように、必要な線と、必要じゃない線っていうのがあると思うんで、必要じゃない線はもうなくしてっていうか、自分の生きたいように生きれるような世の中になったらいいなと思います。



**板野中学校 3年 t** さっき線の話が出てきたんですけど。私自身、自分のことについて人に話すのがあんまり得意じゃないんですよ。それで人と自分の間に線を引いて、これは自

分の中で必要な線だと思って、今までずっと剥がさんとおったんですよ。ほなけどこの前それでしんどくなって、先生とかに話を聞いてもらったときがあったんですけど。そのときの先生や友達が、あったかかったみたいな感じで言ったんですよ。自分のことについて。今までは自分の中で必要な線だったけん剥がさんとおったけど、実際考えてみれば、この線でもういらなかったんじゃないかなって思ったんですよ。ほのとき自分で剥がせんかったのが、友達や先生と一緒に剥がせた感覚がして、ちょっと気が楽になったってことがあるんですよ。ほなけんそこでは自分だけでは剥がせんかもしれんけど、誰かと協力して、これからも少しずつ自分のことをしゃべって、その線を剥がしていけたらいいなと思いました。



**松茂中学校 1年 a c** ボクは病気で入院してたことがあって。5年生の末、3学期の終わりぐらい。別に体調が悪いとか、そういうわけではなかったんやけど、入院したんですよ。少したって、入院してる間に担任の先生が電話くださって。自分が背負ってた何かが、ほぼゼロになるくらい減らされた気がして。学校行くのにも勇気が出たんですよ。登校日が来たんですけど、たぶんみんなも、自分が入

院してたんだろなっていうのは分かってたと思うんですけど。自分からは言っていないんですけど。たぶん分かってたと思うんですよ。でも、いつも通りの感じで接してくれて。こんなにもあったかかったっていうのをメチャクチャ思っ。それが5年生の時の一番の思い出です。それからやっぱ、自分から恐怖という、入院してたことの恐怖っていうものを引いて。線を。その線を、友達とか先生が、自分を勇気づけてくれたから、全部取り払うことができたんですよ。やっぱり自分が信頼できる人は絶対に必要だなって、自分に勇気を与えてくれる存在は絶対必要だなって、そのときにあらためて思いました。ありがとうございました。



**松茂中学校 1年 r** また線の話なんですけど。ちょっと人権には関係ないんですけど。苦手な教科と不得意な教科が誰にもあるんですけど。そのときに受験のときとかに苦手な教科を詰めていくと言いますが、点数を上げるといいんですけど、でも努力していてもできないということが出てくると思うんですよ、たくさん。できることは頑張って努力していけばいいんですけど。例えばボクが苦手な教科だったのは数学で解けなかったんですけど。まあそれでもどんどんやっていったん



ですけど、やっぱりなかなか克服はできなかったんですよ。今考えてみれば、努力してでも変えれなかったら、じゃあもうそこにストップして線を引いたらいいんじゃないかなと思って。例えば難しい問題がでてきて、何時間も何時間もやっているって時間の無駄になってしまうんですよね。ずっと解けないでおっても。なのでそこに線を引いてその時間、やる予定だった分を他の教科の時間に移したらいいんじゃないかと思います。そういうことで、他の人が自分よりできるとか考えずに、努力してもできないんだったら線を引いて他の教科に詰め込んだらいいと思います。ありがとうございました。



**松茂中学校2年 w** 線の話聞いて思ったんですけど。線をなくすということも大切だと思うんですけど、逆に線を引くということも大切だと思って。線を引くことで、例えば手助けしてあげたりとか、助けてあげることもできるので。必要なのは差別の線として見ないようにするっていうのが必要だと思って。必要な線というのもあるので、重要なことは線を引かないというのではなくて、必要な線と引かない線というのをちゃんと分別して、引く線は引く、引かない線は引かないということを大切にしたいと思います。



**八万中学校教員 吉成** 線の話になったんやけど、子どものとき<sup>しいたけ</sup>椎茸嫌いやったんよ。 <sup>たけのこ</sup>筍も嫌いやったんよ。おいしくないから。嫌いやから食べんのやけど、この仕事しよったら給食でやるん。生徒前にして、食わんわけにいかんでえな。これ嫌いやから苦手やから避けとこうってわけには気持ち的にいかんやん。食べなしゃあないから食べるやん。食べたらな、意外と<sup>うま</sup>旨かったりするんよ。あのときあんなに苦手やったのに、何で旨いって思うんだろうってずっと思うんやけど、あのときあった線がな、いつまでもずっとあるとは限らんという気がするんよ。まだ分からんかもしれんけど、なんか歳とともに線って変わるような気がして。あのときあんなに強い濃い線だったんが、歳とともにだんだん薄れてきて、いつの間にやら線、あれっないわ、みたいな。もっと言うたら、「え、椎茸うまいやん」みたいな。「筍うまいやん、天ぷら」みたいな。

さっき教科の、勉強の話もしよったけど。ある子がな、中学のとき数学とか全然できなかった苦手やった子がな。例えば100点満点で20点、30点の子が高校生になって、「先生数学教えて」って言ってやってきたわけよ。

「かんまんよ」って言って、別に高校の数学

するわけでないんやけど、中学校ぐらいの数学をするんやけど。それがまたすらすら解けるわけよ。この子こんなにできよったっけみたいな。で、「こんなにできよった？」って聞いたら、「んー、できてなかった気がするけど、なんか今だったら解ける」みたいなことを言うわけよな。人間の脳っていったいどうなっているんだろうかって思うんやけど。わからんよ、科学的なことはわからんけど、たぶん成長の度合いってきつと違うのよ。おそらく人それぞれ。でないかなって気がする。理科の先生、また後で教えて。人それぞれ進み具合とか、早い人もおれば、それが時間かかる人もおれば、歳とともに時間とともに変わっていったりとか。決めつけられないもののような気がして。だから今、思っていることが、10年20年30年後もそうかっていうと、そうでないかもしれないと思ったりする。だからよく中学生に言ってきたのは、「食わず嫌いはやめよう」ってことをよく言った。食って嫌いは仕方ないけど、食わず嫌いはやめようってことをよく言った。とりあえず一口は食ってみよう。それでまずいと思ったら仕方ないけど、とりあえず一口食ってみようよみたいな。それを繰り返していったるうちに、もしかしたら美味しく思えるときがくるかもしれないよ。だから食わず嫌いはやめようみたいなことをよく言ってたかな。それがあれば、食べ物相手じゃなくっても、人相手でも、今は苦手やけど10年後も苦手かどうかは限らへんで。今苦手な友達でも、今苦手な人でも、10年後20年後にはめっちゃ仲良かったりとか、実は親友になってたりとかってすることって、あるかもしれないって気がするのよ。

だから、決めつけない。線は変わる。なんなら線は変えられる可能性があるもののような、そんな気がします。なんかみんなの話聞いてて、すごい線について今日は考えました。以上です。

**三重県教員 a d** 線の話、始めたことでみなさん、線のことでもいろいろ言ってくれてありがとうございます。すごくうれしかったです。線のことについて2つお話ししたいことがあって。

1つめは、私、三重県のa dと言いますが、隣に愛知県があって愛知県で万博があったんです。愛地球博という万博があって。そこでイスラム館ってパビリオンがあったんです。イスラム教に対してよく知らないし、どっちかっていうとマイナスイメージもってたんですね。んで、どんな所やろうと入ったときに、垂れ幕があってコーランっていう聖典の中に書いてある言葉なんですけど、「神はなぜ違う言葉と民族をなぜつくりたもうたのか。それは互いに理解し合うため」って書いてあったんです。すごいこと書いてあるなって思ってた。たまたま学校に来ている英語の指導員の方がイスラム圏の方やったんですね。これはチャンスやと思って、「本当にコーランに書いてあるんですか」って聞いたら、「書いてある」っていうことがあって。違いっていう、そこにあるどうしても引いてしまう線に対して、それは何のための線なのかって言うたときに、お互い理解し合うためであるっていう言葉がボクの中にすごくあって。そのための自分にとっての違いなんやなと思うて。そこを理解しようとしてるのかどうか。その気持

ちをもつことが大事なんやなって、ボクはその言葉から学んだんです。それが、先ほどの言葉の中に、その線はいつかなくなることもある可能性があるって話を聞かせてもらって、すごく思い出しました。

それと、また部落差別の話になるんですけど。この人にだけは言わん方がいいって、身内に止められている人がおって。その人はずっと一番最初に、結婚に反対しとった人やったんです。あの人にだけは内緒にしとこって。身内の中で、結婚はうまいこといってるんやけど、子どもも産まれてってなったときに、実はあの人にはしゃべってかん方がいいよって言ったその人は、自治会長さんとかいろんな役職をされてる中で「いろんな人権の学習をしとるうちに、昔はそれはあかんと思うとったけど、こんなこと言うとなったらあかんのやということを勉強した」ということが後になって分かってきたという話があつてですね。結局あの人に話しせんといた方がええんと違うかと言うとった自分が一番線を引いとったんやなっていうふうなことも聞いたこともあります。なので、あかんかなって言うとなつた線もいつかなくなっていくこともあるんやという可能性があるっちゅう話かと思つて。その線をまたこれからも見つめて、お互いに気がつきおうたら、この線は大事な線やとか、この線はなくていい線やとか、そんな話がいろんな人とできるってことが、差別がなくなるってことに繋がるんじゃないかと思いました。ありがとうございました。

**板野中学校2年 g** 二度目の発表なんですけど、板野中gです。今先生が、人に引いてた

線が変わるみたいなことを言つて。ボク小学校5年生のときに1歳上の先輩にいじめられてたっていうか、ちょっとちっちゃい喧嘩<sup>けん か</sup>をしてたんですよ。隣の部屋で悪口言い合ったり、すれ違ったら睨み付け合ったり、そういうんしてて。話し合いにもなったんですけど。そのとき、その先輩が本当に、めっちゃ失礼なこと言うんですけど、本当に大っ嫌いで、あんなやつ学校こんかつたらいいのにか言つて教室で叫んでたぐらいだったんですけど。今は中学校で3年生の先輩で、陸上部に同じ入ってるんですけど、1年生入って後半ぐらいのときに、先輩がすごい走りのフォームとか綺麗<sup>きれい</sup>だったり、走ってる姿が格好よかつたりして。いつの間にか憧れの存在になつてたんですよ。小学校の頃は最悪な線だったんですけど、その人とボクとの間の線は。なんかもうどろどろで汚くて最悪な線だったんですけど。今はすごい綺麗で、もういい印



象しかない、憧れしかない線になつて。そういう時間とか見る場所とか、冷静に考えるとすごいいい先輩だったんだなつてことを思うと、今苦手な人がいるんですけど、その人も数年後には好きになつてるかもしれないなと思つて。人生何があるか分からないなと思つて、ちょっと今わくわくしています。



**松茂中学校 2年 v** さっきなんか、違う民族をつくったのは理解すること、みたいな言葉があったんですけど。線の話がずっと続いているじゃないですか。野菜は嫌いとか。そういうのは線でいいと思うんですけど。ずっと考えてたんですけど。差別するってなったら、線じゃなくなって壁になってくるんじゃないのかなって気がするんですよ。差別とかいじめとか、そういうものの始まりって、<sup>けんか</sup>喧嘩とかありますけど、この人は嫌いとかいうので壁ができて。もうその人のことを理解しようとしなくていいってことについても壁ができて。そうやって壁がずっと増えてくると思うんですよ。差別をなくそう。学校内での差別をなくそうとか思うんだったら、まずはその人のことを理解して、1個1個壁を壊していったって考え方をしてたら、学校内とかそういう、みんなが触れ合う場所では、差別はおこらないっていうか。先生たちがいるので言いますが、そういうこととか教え方とかしても、ボクはいいんじゃないのかなとか思いました。終わります。



**高瀬中学校 2年 p** 私は低学年の頃とか、なんかいじめられてたことがあって。けどなんか、その子とは今仲いいんですけど。そのと

きにいじめられるときに、なんでって思ってた。逃げたいって思ったんですよ、その場から。けど、そこから逃げてしまうと、次まだまだ高学年とかになったときに困るのは自分だし、そこから逃げても何も解決しないなと思って、立ち向かったんですよ。そしたら、なんか今は仲いいし、普通に友達としてたくさん話せるけど、なんか時々その低学年にあったことを思い出してしまって、気分が下がったりしてしまうときがあるんですけど。なんかそれも、友達に、その子にはあんまり記憶がないと思うんですよ。私からしたら結構嫌な思い出みたいになってるんですけど。たぶんその子からしたら、あまり印象に残ってなくて、それっていじめられてる側はすごい記憶に残ることだと思うし。だから、そのいじめて人は絶対にしてはいけないことをすると思うから、絶対にそういうしてはいけないことなどを、してはならないなって。これを聞いて、改めてまた思うことができてよかったなと思いました。



**三重県教員 ad** たぶんこれで最後の発言になると思いますが。線を引くという言い方をしています。それは差別をする側がつけている線というのは、ボクは強く意識しています。それはなんでかっていうと、線は、線ってい

うとなんかすつと取れそうな気がするじゃないですか。でも、いじめられたり、差別を受ける側が、実は線どころか自分自身に対して、何本も杭を打ってこっからこっちに来んといてみたい。それぐらい強いものがどうしてもあるんですね。それはなかなか抜こうと思っても抜き切らんですよね。受けてるもんにとったら、それはもうしんどいもんだから、抜ききらんですわ。でも、その抜け切らんものを周りは簡単に線引いて分けてしまうんですね。簡単に分けてしまうんなら、簡単に剥がせよって思っ<sup>あ</sup>てほしいので、敢えて線って呼び方をしてるんですよ。それだけちょっと付け加えておきたいなと思って。そういう、あんたちよつと線引いとらへんかっていうふうにソフトに言うと、ちょっと考えてくれるんです。わーわーって言うともうガーって身構えてしもうて、わしゃ差別しとらへんというところで、バシャーってシャッター下ろされるもんで話にならないです。ちょっとなんか考えて、ちょっと気がついてって思っ<sup>あ</sup>て、そうやって言うてるとその線に気がついてくれて、自分線引いとったわって気がついてくれて、なくなってく方向に動いていってくれるもんで、敢えて線という言い方をしています。しんどいときは杭刺さってますんで、その杭を抜くのが大変です。

**司会者** まだまだ発表はあると思いますが、このあたりで午後の部Ⅰの話し合いを終了し、10分間の休憩を取りたいと思います。10分後には元の席に戻ってきてください。

